



黄河の森

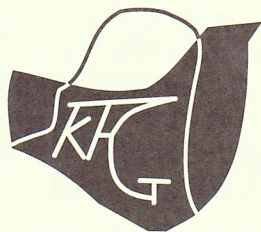
K F G

発行／特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
常務理事・事務局長／矢野正行
編集責任者／小川良太

〒650-0011
神戸市中央区下山手通り2-13-7
東昌ビル7F 華僑総会内
TEL・FAX:078-392-8328
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp
URL:http://www.kobe-chinese.com/kouganomori
IP:05031111874



「活動再開 六甲住吉山手植樹地にて」



ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

- P.2 事務局からの報告 総会・活動の再開を目指して
- P.2 私の防災 - これまでの植樹活動を振り返って -
- P.3 庭木の健康診断 ㊹
- P.3 絵本からのメッセージ ㊿
- P.4 環境史・土地開発史・災害史 ㊸

事務局からの報告

総会と活動の再開を目指して

第20回通常総会の開催は昨年同様にコロナ感染症の影響下にあり、対面での開催には懸念が残っていました。5月になると政府による5類への移行と、医療・行動規制の緩和が発表されましたが、会としては安全性を考慮して今年度も対面での審議は断念し、会員の皆様には書面参加をお願いすることにしました。総会は5月20日に郵送された議決書・委任状と出席した理事により開催しました。会では22年度活動・決算報告と23年度活動計画・計算書が共に承認されました。

昨年は中国での植樹活動は実施できませんでした。内蒙古自治区オトカ前旗のカウントパートとの連絡・協議は適宜行ってきましたが、事業の展開には結び付きませんでした。国内では六甲住吉山手の活動地の、砂防ダムの建設工事が2月に終了しました。完工の近づいた昨年11月には、工事により影響を受けた植樹地の復元方法と位置・範囲の確認を行い、それを受け3月には理事達の手によりミズキ・カスミザクラ・エノキ・ヤマボウシ・イヌシデなど30本を新たに植えました。

23年度はオトカ前旗での事業再開は困難と判断しました。長引く感染症の影響で、現地に赴き新規事業



捨てられていたプランター

地の選定・確認ができていない現状と、中国への渡航の困難さが依然として残っていることを考慮して、助成金申請は今年度も行わないこととしました。国内事業地の六甲住吉山手植樹地では、これまでと同様に活動を継続することにしました。6月には例年通りの下草刈り・植栽木の支柱などの手入れを実施しました。今回の活動で植樹地の中央に家庭用のプランターが廃棄されているを見つけました。今後の新たな頭痛のタネになることが予想されます。

秋期には状況が改善すれば、六甲山クリーンアップ活動の再開も計画しております。会員の皆様の参加をお待ちしております。

私の植樹と防災

—これまでの植樹活動を振り返って—



NPO法人「黄河の森緑化ネットワーク」に入会し植樹を始めて約18年になります。この間に中国蘭州市へ6回、内モンゴル・オトカ前旗へ10回の訪問をしました。国内では六甲山住吉山手での植樹を15年間行って来ました。それぞれの場所を訪れるたびに、荒れ地だったところに植えた木々が成長した姿を見ると、緑化の効果は表れていると感じているところです。

植樹にはあまり関係ないのですが、5年前に国家資格である防災士の資格を取り、現在は居住地の奈良県防災士会と奈良市平城地区防災士会に所属しています。このためか最近では地震や大雨による災害の報道に敏感になり、水害などの防災対策に思いを巡らす機会が増えて来ています。

古くから木々の緑がCO₂を吸収し環境を良くする事は知られていますが、さらに木々の緑や森林が防災に大きな役割を果たしていると身近に感じるようになりました。森林の保水力が山の法面崩壊を防ぎ、土砂流出を防止します。天然の貯留地として雨水の流出を調整しているのです。特に広葉樹の雑木林が大きな役割を果たします。また市街地においても28年前の兵庫県南部地震後の火災発生時においては、長田区の一部の街路樹が延焼を防いだとして大きく報道されてい

たことも強く記憶に残っています。

地震や豪雨はいつ起こるか分かりませんし、止めることもできません。しかし家屋の補強工事や治水工事を進めることにより、被害を少なく(減災)することはできます。このように植樹を行って木々を育てることは大きな防災対策にはなりますが、効果が表れるまでには長い時間と活動の継続が必要です。このように木を植えることは、人命を初めとする被害の軽減を目指す一方法であることには違いありません。効果が出るまでには時間がかかります。

近年の繰り返される集中豪雨による凄まじい被害状況を見られ、皆さまも自分の住む地域の行政が発行しているハザードマップで、日頃から「いざという時」の避難先・経路は確認しておられることと思います。同時にそこで考えられるのがハザードマップを分析し、どこに木を植えれば効果的な防災対策になるかを、一人一人が研究することも重要だと思えます。これには地域の人と連携し、協力し合って活動する事が大切になります。“自分の身は自分で守る”と言う考えのもと、植樹活動についても地域の安全に寄与出来るよう考えたいと思います。

事務局長 矢野正行

会費・緑化支援金等協力者のお名前

(2023.1.1~2023.6.1現在)

●順不同・敬称略

石村	嘉成	江永	賦倉	春弘	一林	木同	仁福	楊堺	震屋	雄和	吉島	川宏	政一郎	和裕	竹樽	本岡	由千	天隆	幸谷	田川	悦清	麟隆	(株)阪神・阪急ホテルズ
上鷹	夫之	永安	本昭	久理	吳方	田文	福慶	堺江	屋洋	夫龍	高西	田裕	士江	郎鎮	樽馬	岡政	千茂	隆重	谷王	川華	清銀	隆銀	(株)モーリーヤ
石山	史真	古川	智玉	球智	許陳	永明	慶慶	宮島	昭周	夫美	野平	川鎮	士江	郎鎮	馬池	岡政	千茂	隆重	谷王	川華	清銀	隆銀	(株)大木工務店
青木	明	石池	玉智	球智	許陳	永明	慶慶	宮島	昭周	夫美	野平	川鎮	士江	郎鎮	馬池	岡政	千茂	隆重	谷王	川華	清銀	隆銀	(株)東栄商行
李雲	精	池田	智	智	陳	明	慶	田	周	子	李	野	鎮	鎮	池	岡	千	隆	谷	川	清	隆	神戸博愛病院



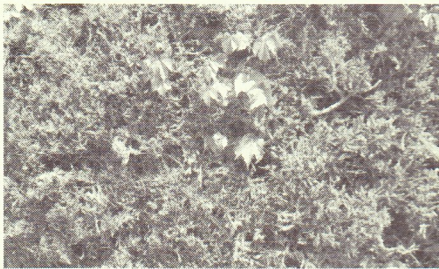
私と環境(38) 庭木の健康診断 ②9

樹木環境研究会「ミルフィーユの会」
天 野 孝 之

庭の手入れ 《つる植物》

前回に続き「つる植物」の話です。
20) ノブドウ (ブドウ科 *Ampelopsis glandulosa*) : 境栽木 - 高木

巻きひげで絡みながら樹木に覆いかぶさります。巻きひげで絡まるため、引っ張ることにより比較的取り外しやすいつる植物です。茎は太くなると木質化し、直径4-5cmにもなります。ヤマブドウの果実はそのまま食べたり、果実酒、ジュース、ジャムなどに加工されますが、ノブドウは利用できません。



イブキの垣根に入り込んだノブドウ
垣根のアクセントになる



シャクナゲに登り始めたノブドウ

21) ヒヨドリジョウゴ (ナス科 *Solanum lyratum*) : 境栽木 - 低木

茎や葉全体に軟毛が密生し、柔らかい感じがします。密に腺毛があるので触ると粘つきます。葉柄で巻き付き登攀しますが、その力は強くないので、茎を引っ張っての除去は簡単ですが、多年生であるため簡単に再生します。



サツキの樹冠にかぶさり始めた
ヒヨドリジョウゴ

22) フジ類 (マメ科 *Wisteria* sp.) : 境栽木 - 高木

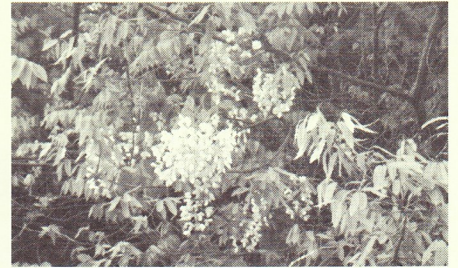
フジ (*W. floribunda*)

ヤマフジ (*W. brachybotrys*)

ナツフジ (*W. japonica*)

などがあります。つるを長く伸ばし、低木から高木に巻き付き這い上がり、梢から隣の梢と広がり樹冠全体に覆いかぶさります。高木から高木へとつるを伸ばし、大きく成長するため、大きな樹冠を形成します。巻き付いた樹木を、絞め殺すともいわれているほど成長

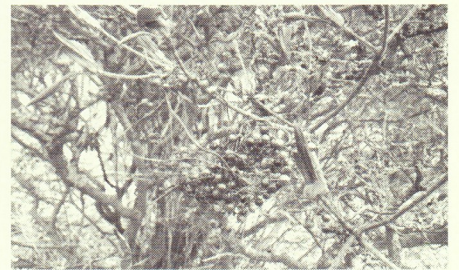
が旺盛です。薄紫色の花だけでなく、白色の花もあります。



クヌギに覆いかぶさるヤマフジ

23) ヘクソカズラ (アカネ科 *Paederia scandens*) : 境栽木 - 低木

「屁糞蔓」と、何とも変わった名前です。別名には、サオトメカズラともいわれています。ヘクソカズラの種子は、直径5mm程の球形で落葉後も枝に絡まりついています。つるは細くて強いので除去するのが困難です。絡まりつかれたヤマツツジは日照・通風不足で衰退し、地衣類が着生しています。



衰退したヤマツツジの枝に形成された
ヘクソカズラの種子

絵本からの メッセージ 36

「おおきな きが ほしい」

児童文学者 畑 中 弘 子



ぶん：さとう さとる
え：むらかみ つとむ
(偕成社)

大きな木は誰にとってもどのような年齢であっても魅力のあるものです。「おおきなきがほしい」の主人公のおおるもそうでした。「ねえ、おかあさん。おおきくて、たかいたかい 木に のぼってみたいと おもわない?」「でも、あぶなくないかしら」「あぶなくないように、いろいろ かんがえたんだ」。

そして、かおるは空想の世界へ……。頁が縦開きとなり、立派な太い木が現れます。幹には大きな穴が空いていて、はしごが中にかかっています。先には、テーブルと椅子、小さな台所まである可愛い部屋がありました。ここでホットケーキを焼くのです。妹の「かよちゃんも つれてきてやろうかな」。さらに上にのぼると、リスやかわいい小鳥たちが「こんにちは」と挨拶します。やっと、てっぺんの見晴台につきました。「わーい」遠くの山々が美しい……。かおるの空想と一緒に、私たちも、子どもに戻り、木のぼりをしたり基地をつくったり、嬉しい時間をすごすことになるでしょう。生き生きとした力強い絵も魅力の楽しい絵本です。

環境史・土地開発史・災害史 ③

立命館大学環太平洋文明研究センター

特任教授 高橋 学

「関東大震災と阪神大水害」

ちょうど100年前の9月1日午前11時58分、関東地方一円で大地震が発生した。大正関東地震（関東大震災）である。ちょうどお昼の準備の時間だったので木造家屋が密集する下町を中心に各地で火の手が上がり燃え広がった。当時、日本は地震研究の最先端であった。東京大学地震学教室の大森房吉教授はオーストラリアの学会に出席中で、完成したばかりの地震計を見学していた。地震計は日本、しかも東京付近を震源としたものであることを大森はすぐに気づいた。大森は、日本を発つ前の1905年に無給の助教授であった今村明恒助教授が雑誌『太陽』に「近いうちに東京周辺に巨大地震が発生する。」と発表していたのに対し、それに反対して大論争を引き起こしていたのである。それをよく読めば、大森は、けっして地震が発生しないと断言したのではなく、「不必要に世間を騒がすことに」注意喚起をしていたのである。災害予測の難しさである。

近代的な地震観測が始まっていたにもかかわらず、大正関東地震ほどいまだに実態のはっきりしないものはない。震源の場所も、地震の規模も、死者・行方不明者数さえも明らかにないのである。震源の場所は東京湾の周辺3カ所推定されておりそれがごく短時間に混在したことが原因らしい。地震の規模の示すマグニチュードは7.9と推定されているが、これも推定値に過ぎない。死者・行方不明者は当初約14万とされていたが、最近になって数え間違いが多数あることが判明し、死者約105,000人へと修正された。このうち、火事で亡くなった方は約9万2000人と大部分を占めたのである。火事は下町を中心に3日間燃え続け、「グラリときたらまず火の始末。」が地震の際の教訓となった。

ところで、2011年3月11日に発生した東北地方・太平洋沖地震以前、プレート型(海溝)地震による津波による死亡者を約2万人と国は見積もっていた。ところが親潮(千島海流)の影響で海水温が低く、人口や人口密度の低い東北地方や北関東の太平洋岸の被害をみて、南海トラフ

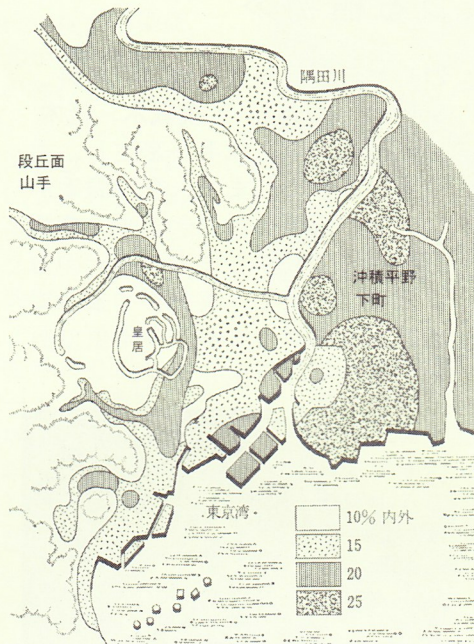


図 関東大震災の被害(家屋倒壊率)
(今村 1925を一部改変)

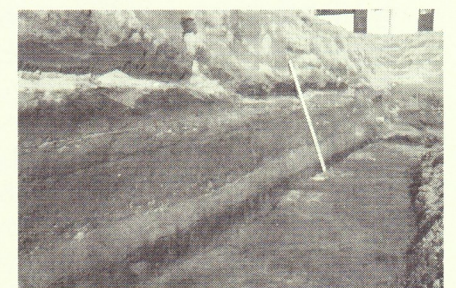
地震の津波死亡者を約20万人へと変更した。さらにその年の防災の日(9月1日)の前日には32万人~33万人へと増やした。なお、著者の推定では少なくとも45万人以上である。1960年~80年頃には平野の地下水のくみ上げ過ぎで、1~2m地盤沈下しているところもあり、江戸時代の津波以上に内陸まで津波が達する恐れがあり注意が必要である。

さて、大正関東地震では、田山花袋、寺田寅彦、野上彌生子、永井荷風、芥川龍之介、正宗白鳥、宮本百合子など多くの文学者が記録を残している。なかでも注目されるのは谷崎潤一郎であろう。横浜本牧に新築した家で台風に遭った谷崎は、1922年10月、安全な高台にある横浜山手へと移り、災害に強いように頑丈な西洋風家屋を新築した。しかし、1923年9月1日の関東大震災では家は無事だったものの大火事により山手の家も類焼してしまう。そこで地震の少ないと思い込んでいた阪神間へと住居を移したのである。そして、そこでも、様々な理由で点々と住む場所を変えた。1938年7月3日~5日にかけて阪神大水害の際、谷崎自体は天井川をなしている周囲よりおよそ6m高い人工堤防上の倚松庵に住んでおり被災しなかったものの、小説「細雪(ささめゆき)」の中では二女幸子の娘や四女の悦子などを助

ける場面が詳細に描かれている。7月3日の夕方から降り出した雨は、4日には142mm、午後1時20分に降り止むまでに270mmの降雨量となり、総雨量は462mmに達したのである。関東大震災と阪神大水害を経験しながら、転んでもただ起きないのは文豪と呼ばれる所以であろうか。

六甲山地はまるで砂山であるかのような風化した花こう岩でできており、しかも活断層でズタズタに破壊されており、大雨が降ると土石流を引き起こしやすい性格である。しかも北東-南西方向に延びる屏風のような存在のため、線状降水帯が形成されやすい。明石から姫路にかけては、六甲山地のような山地が存在しないために上昇気流が形成されにくく雨が降り難いのに対して、六甲山地の南麓では土石流を伴った豪雨に見舞われやすい。六甲山地から駆け下る急流を横切っていくつかの鉄道や道路が存在するため、橋脚に巨礫や流木が邪魔をされてダムのようになり破堤する場合も多いのである。

神戸市教育委員会、兵庫県教育委員会などが発掘調査した住吉宮町遺跡、郡家遺跡、坊ヶ塚遺跡などでは弥生時代から古墳時代にかけて一気に堆積した花こう岩の洪水砂で埋もれた遺跡が発見されている。西岡本一丁目遺跡では、現地表面から1.5m~2m花こう岩の砂しか見いだせなかった。ところが、確認のため深堀してみると、旧地表面と考えられる場所から牛乳瓶が検出され、それを被覆する花こう岩の砂は、1938年の阪神大水害時のものであったことが判明し洪水のすさまじさに驚いた。六甲山地南麓では、礫だけではなく花こう岩の砂も含め土石流的に極めて局所的に堆積しているようである。その際、河川を横断する橋や道路などの橋脚が障害となって河川の破堤被害を大きくしている可能性がある。



阪神大水害の洪水砂(兵庫県 西岡本1丁目遺跡)

※ 前号記事中の図2の写真に被災バスの映像が入っていませんでした。お詫びします。 編集者